2021 年（令和 3 年）10 月 1 日
くげぬま探求クラブ

会報　くぐひ

第 107 号（秋号）

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

コロナ・ワクチン・ニューノーマル…今、できる活動を！

世話人代表 大木 信一

新型コロナウイルス（COVID-19）は、2020 年春以降の日常をガラリと変えてしまった。

- 電車やスーパーマーケット内では全員がマスクをし、街中でも殆どの人がマスクを着用
- 一日に何回も石鹸で手を洗い、どこかに入る時にはアルコール等で手の消毒さえ行う
- あらゆる場所で密閉・密集・密接を避け、ソーシャルディスタンスと換気を意識する
- 飲食店でも、大勢での飲食や大皿料理は避け、飲食中の大声での会話は気が引ける

この様な日常は 2 年前には想像だにしなかったが、1 年以上続くと当たり前の感覚になる。一方、コロナ以前の日常を振り返ると、現在の状況には違和感とやるせなさを感じる。

現在、コロナへの唯一の対抗措置とされているワクチン接種は、殆どの高齢希望者には 7～8 月中にも 2 回の接種が終了すると思われるが、若者も含む全体への接種は、ワクチン接種への意向も含め不透明である。またこのワクチンでさえ、変異株への有効性、有効性持続期間などを考えると、一度の 2 回接種で未来永劫万全という訳にはいかない。

さて、くげぬま探求クラブの活動への新型コロナの影響も計り知れず、くぐひ第 102 号（2020 年夏号）の巻頭記事「新型コロナがもたらした空白の日々」以降、幾度となく取り上げられている。今回は当クラブの現在、過去、未来について、今、できることを考えてみたい。

1.　現在：「継続は力」

2021 年 4 月以降も「花見」「納涼会」「公民館まつり」などの行事は、昨年に続いての中止が決定し、部会活動でも休会が続いているものがある。全員が高齢者の当クラブでは殆どの会員が 2 回のワクチン接種を終えていると思われるので、今後の部会活動、恒例行事が順調に再開されることを願っている。

しかし、以前のような密集・対面での活動や反省会、大人数での飲食会などが出来るようになるのはいつのことか？今後もしばらくの間は、何らかの制約下での活動が続くであろうが、その中で工夫を凝らして活動を再開し、継続していくことを目指したい。

2.　過去：「温故知新」

メディア委員会で提案があり、9 月例会で正式に承認されたアーカイブ委員会では、2023 年 4 月に迎えるくげぬま探求クラブ 30 周年に向けて、これまでの歩みを辿ることのできる資料をアーカイブ化して保存しようとしている。

クラブとしての活動が停滞せざるを得なかったこの 1 年半の間にも、我々の年齢は着々と進んでおり、会員の構成も変化している。これまでのくげぬま探求クラブの歴史を辿り、知り、伝えていくことは、まさに温故知新の言葉通り、当クラブの今後の活動の基になるであろう。

3.　未来：「人は城・・・」

会員のさらなる高齢化に対応し、新会員を勧誘し増加を図る必要がある。

9 月 11 日に藤沢 F プレイスホールで開催された第 14 回地域活動見本市は、新規会員募集の絶好の機会であった。残念ながら時節柄、無観客での開催（後日動画配信予定）となったが、全部で 15 団体が紹介のプレゼンテーションを行った。果たして、我がくげぬま探求クラブに興味を持ってもらえるか？入会者はいるか？期待して待っているが、今後も機会あるごとに、くげぬま探求クラブの理念と活動の魅力を紹介し、会員募集に努めていきたい。

シリーズ　明日から役立つ気象のはなし

災害研究部会　部会長　柳田 敏雄

災害研究部会員で気象予報士の小川さんに、くぐひ編集部から気象関連の記事を投稿しないかとの提案がありました。

気象・災害関連の正確な情報をクラブ員はじめご近所や町内会の方々に広めて防災に役立てていただければ、部会の発足の主旨にも合いますので、今後、継続的に気象関連のエッセイ風記事を投稿していただくことになりました。是非、ご一読下さい。

更なる詳細内容は災害研究部会にて発表しますので、ご参加をお待ちしております。

（1）観天望気のすすめ

小川 隆

最近、空を見上げることがありますか？空には季節ごとにいろいろな形の雲が浮いていて、上空の風の流れや温度、空気の湿り具合などを教えてくれています。そして、これらの現象から天気を予想することもできるのです。「観天望気」という言葉をご存知の方は多いかと思いますが、このような空の様子や動物の動き等から天気の変化を予測することをいいます。観天望気は公式な天気予報に代替できるものではありませんが、漁師さんが長年の経験から、雲や風の様子から明日の天気を予想するなどの方法は注目に値します。同様にその土地に長年暮らした古老の伝える過去の災害経験からの予測やアドバイスは、明日の災害を軽減する重要な情報となります。このような経験則をもとに一定の気象条件と結論（天候の変化予測）の関係を述べる言い伝えも、また「観天望気」なのです。

観天望気でお馴染みのものが「夕焼けが出れば、明日は晴れ」で、夕焼けは西の空が晴れている時に見られます。日本の天気は西から東に移ることが多いので西の空が晴れていると翌日が晴れになる確率が高いというわけです。その他、「蜘蛛の巣に朝露がかかっている日は晴れ」、「猫が顔を洗うと雨」など面白いものも数多くあります。因みに空に浮かぶ雲による観天望気は、的中率が高いものが多く海山のレジャーに活用している方も多いようです。例えば、「朝から積雲（わた雲）が出ていると、午後は雷雨」。この積雲は綿菓子のような白くふわふわと浮かぶ雲（写真 1）で、上空に湿った空気が入っている時に発生しやすく、これに強い日差しが加わると積乱雲（写真 2）に発達します。

写真 1 積雲

写真 2 積乱雲

写真 3 巻積雲

積乱雲は強い風や雷雨をもたらすことが多く注意が必要な雲です。つまり積乱雲の元となる積雲が朝からたくさん出ていたら、それだけ積乱雲が発生しやすく雷雨が起こりやすいと考えられるのです。

その他、「頭の上に黒い雲が広がり、冷たい風がサ～っと吹いたら天気急変」というものがあります。これは発達した積乱雲が近づいている兆候で、黒い雲は雨雲、冷たい風は地上に向かって吹き降りる冷たく重い空気で「下降流（かこうりゅう）」と呼ばれるものです。下降流の特に強いものをダウンバーストと言い、時には離着時の航空機に深刻な影響を及ぼします。このような兆候を感じたら速やかに頑丈な建物に避難する等の行動が必要です。特に川沿いのキャンプ場などでは激しい雨による河川の急激な増水等も考えられるので、危険な兆候といえます。

雲による観天望気には、秋がうってつけのシーズンです。正岡子規は各季節の雲の様子を「春雲は綿の如く、夏雲は岩の如く、秋雲は砂の如く、冬雲は鉛の如し」と詠んでいます。夏雲の代表である積乱雲は確かに岩のようにモクモクと高くそびえていますね。そして秋の雲は「砂の如く」です。この秋の雲の代表が砂を撒いたように見える「巻積雲」（写真 3）です。「うろこ雲」ともよばれる美しい雲で、天気を崩す低気圧や前線等の接近時に現れやすいものです。この雲が時間の経過とともに広がり、低い位置に現れると、天気が崩れる兆しとなります。外出には念のため、折り畳み傘の持参がおすすめです。

「秋は雲の展覧会」といわれ いろいろな形の雲が楽しめます。そして雲による観天望気の方法を知ると更に空を見るのが楽しくなります。観天望気に関する書籍はたくさん出版されており、又 インターネットにも詳しい知識を得られるページが数多くあります。忘れがちな自然との対話、コロナ禍で自粛生活が続く中ですが晴れた日はのんびりと空を見上げ、観天望気は如何でしょう。

磯川道夫さんが令和３年６月９日に逝去されました。（享年 85）

磯川道夫さんを悼む

鈴木 英紀

平成５年６月、鵠沼公民館の一室に還暦前後の男５人が集まりました。磯川さんが 57 歳、私は２歳下でした。以後、徐々に仲間が増えて翌６年４月、会員 18 名のくげぬま探求クラブが誕生しました。

磯川さんは、その年から始まる公民館まつりの古本市に情熱を注がれ、その後も毎回先頭に立ち続けました。クラブ発足の１年後には、会報誌「くぐひ」を自ら立上げ、発行されました。やがて生まれた「ヤングハーツ」の名付け親であり、あの明るく率直な人柄がクラブのピンチを何度救ってくれたことでしょう。

サロン会、近代史を語る会、おもちゃの病院、ヤングブラザーズはじめ、多くの部会や行事で楽しい時間を共に過ごすことができ、とくに文芸や報道分野での示唆に富んだお話をよく聞かせてもらいました。

似歌会の５月句会（兼題：柏餅）が同席した最後の会合になってしまいました。

〈手づくりの祖母が笑顔のかしわ餅/指先に香りただようかしわ餅　　磯川道楽〉

７月句会では参加者 10 名（うちゲスト３名）が追悼句を献じて、道楽さんを偲びました。

トレモロの静かに流れ初の盆　　佐々木虎山

酒場すみグラス片手の友の盆　　成瀬義雄

流木で沸かす磯ふろ相模灘　　佐藤恒有

新盆やありし日偲び手を合わす　　八幡嵯撫路

武者は逝き天の川へりやどりせむ　　佐伯独活

新盆や跡を継いだ娘逞しく　　細田楽呆

新盆やまだ迎え火を焚けなくて　　高木碩秋

近代史学ぶ姿に頭たれ　　西村無仙

悲し風追慕の庭に盆の月　　水野木偶坊

六月の出合ひ三十歳有り難き　　鈴木風鈴坊

磯川道夫さん、28 年間本当にありがとうございました、さようなら（合掌）

磯川道夫さんを悼む

水野 祐作

磯川さんが６月９日に肺腺癌で亡くなられました。そのひと月前に頂いたメールには、一日に何回も予告なしに現れる息苦しさと胸の痛みが続いている様子が記されていて結びとして“♪胸の痛みに耐えかねて~♪などとお門違いの冗談を思い浮かべながら、もうしばらく苦戦が続くことでしょう”と締めくくられていました。それなのに、コロナ禍の自粛生活でお会いできぬまま帰らぬ旅路に出てしまわれるとは・・・無念

磯川さんとは会報くぐひの創刊時からのお付き合いでした。版下作りのお手伝いと称してよくお宅へお邪魔をして奥様にもご迷惑をおかけしました。くぐひに関しては、ご自身の報道関係での経験から文書・言葉の使い方に厳しく、また会報とはいえ多くの他者の眼に触れるものを作るのだからきちんとしたものにしたいとの姿勢を堅持されていました。版下作りの作業が終えアルコールが入ると満面の笑みで“禁じられた遊び”から入るギター談議になり、また、友人で冒険家の植村直己さんの思い出話、冬のマッキンリー単独行で消息を絶った時の悲しい取材の話をされていたのを思い出します。磯川さんは、ご自分の信念を曲げない正統硬派ですが、優しさと厳しさのバランスの取れた素敵なお人柄でした。呑む席でご一緒すると、今、時間は全て自分の自由になるのだから、大切に使わなくてはね。どう死ぬかはわからないことだから、どう生きたかということにこだわりたいなぁとよく言われていました。当クラブでのご活躍とその楽しみ方でこの想いを実践されていたことが分かります。きっと今頃は、天の川を飛ぶ白鳥座の傍らでワイン片手に植村さんと旧交を温めておられることでしょう。

ここに磯川さんの急逝を心より悼み、安らかな眠りをお祈りいたします。　合掌

地域活動部会紹介

「子どもと遊ぶ会」の近況報告

玉田 英二

「子どもと遊ぶ会」の月例活動、鵠洋児童館の“探求さんと遊ぼう”は、昨年の3月以降新型コロナ感染拡大防止のため活動中止の状況が続いています。

しかし、昨年の 11 月には単発の行事ですが鵠洋児童館の「冬のフェスタ・作って遊ぼう！」が企画され、我々も「パズル変わり絵」と「CD コマ」で参加致しました。そしてこの夏の7月には同じように「夏の工作フェスタ」が企画開催され、我々も参加することが出来ました。

その他の「子どもと遊ぶ会」の行事について報告いたします。ひょっこり鵠南島の関係は、こちらも行事が縮小している関係で、我々のお手伝いするべき活動がほとんどない状況です。それでも今年の6月には開館 30 周年記念の植樹が行われ、我々は記念プレートを貼る看板立ての製作と設置に協力しました。その他では、年末の恒例行事となっている「サンタの出前」も昨年は5か所全て中止になっています。さらに、長く続けている片瀬小学校での「工作出前講座」（4年生全員を対象にウグイス笛作りの実習を行う）も中止状態になっています。

今年もあと3ケ月余りとなりましたが、このような状況下においても何時でも活動再開に向けての連絡と準備だけは、怠らぬようにしておきたいと心がけています。

親睦研鑽部会紹介

「似歌会の紹介」

細田 均

似歌会は高橋正路さん（故人）、野口昌久さん（故人）、佐藤恒雄さん、鈴木英紀さんの発案で平成 24 年4月に立ち上げられました。似歌会の名前の由来は、駄句を並べるであろうから「似て非なる句」という意味で「似句」、それに第2火曜日に開催することから「似歌会」と命名されました。

通常似歌会は原町内会会館で 14 時～17 時に開催されます。前月でトップ句を獲得した人が決めた翌月の兼題（季題）あるいは自由句を3句作って各人が短冊に書き会場に持ち寄りランダムに並べて番号を付け清記します。清記された句から自分が気に入った句を3句選び当番者（輪番制）に提出。当番者が司会をして選者の意見感想等を、最後に作者の理由・背景等述べます。その間3時間ほどの時間がかかるので最初はお茶からその後ビール、日本酒、ウイスキーと喉を潤して散会します。おつまみが準備されています。楽しく愉快に句会を開いています。

現在はコロナ禍の為句会開催が難しくなっていますので集まらずにすむ通信句会を開催しています。流れは通常の句会と同じですが通信（パソコン、スマホ、ファックス等）で投句、選句、会報送付を行っています。

7月に第 106 回目の句会（通信句会で 11 回目）を開催しました。6月 9 日にご逝去されました磯川さんを偲んで兼題を「新盆」としたところ彼の人柄を偲ぶ句が寄せられました。磯川さんには似歌会の重鎮として長い間種々ご指導を戴きました。似歌会の育ての親です。感謝！

現在は参加者 10 名、うちゲストは 3 名です。自粛中で外出もままならない状況ですが、この時期に家でじっくり俳句を捻るのは良い頭の体操になります。ぜひ皆さんの参加をお待ちしています

「アーカイブ委員会」を立ち上げ

クラブ創立 30 周年に向けてアーカイブ事業がスタート

小山 和彦

メディア委員会（会報くぐひ制作部＋ホームページ制作部）は2年後（2023 年）の創立 30 周年記念事業の一つとすべく、「アーカイブ委員会」を立ち上げ、推進していくことで意見が一致した。「アーカイブ」とは記録保管所、書庫などの意味で資料などを保存しておく場所を意味する。

クラブ創立以来多数の資料が作られてきたが、その中に創立の経緯から例会資料・各部会活動資料など将来にわたって保存すべき資料があると考えられる。初期の資料はその多くが紙で記録されているため長期保存には適しておらず、また散逸の可能性も高くなる。そこで創立の経緯やクラブの活動の記録を創立まで遡ってデジタル化して一か所に保存することが必要との考えから提案されたもので、委員は小山と北岡さん、水野さん、長谷川さん、田中（章）さん、塩川さん、奥村さん、大木さん、坂口さんに決まり、30 周年に向けて作業が進められる。

ビフォア・アフター

密かな期待

鶴田 貞夫

私がくげぬま探求クラブに入会したのは 2018 年 10 月ですのでおおよそ 3 年間在籍していることになります。入会時にも書かせていただきましたが 20 年近く続けている家庭菜園ができることが目的で入会したので農園部会に真っ先に入会し、その後、鵠沼松が岡公園愛護会、鵠っ子囲碁・将棋ルーム、デジタル情報部会、近代史を語る会に参加させていただき交際範囲が広がり、クラブ活動を楽しんでおります。

特に農園部会では部会長を引継ぎ責任の重さと共に忙しさに追いまくられています。部会員の育てたい作物の調整、連作障害の確認、種まきからするか苗から植えるかの選択、畑の pH 調整と肥料の選定、おろ抜き、脇芽かき、追肥の時期とその頻度、作物により支柱立ての時期と支柱の組み立て方法の選択そして収穫時期の決定等々判断をすることが多く年々衰えてきている頭の容量を超えてしまうことが多くなりました。

ただし、昨今のコロナ禍においても農園部会、公園愛護会は室外での活動なので継続した活動が続けられ大変楽しく過ごしております。

このように体力の衰え、記憶力の減退を自覚するようになったところに予期せぬ出来事としてこの 4 月から世話人の 1 人に選出されました。戸惑うとともに他の世話人の足手まといとならないように気力、体力、記憶力の充実に務めなければならないと毎朝 6 時 25 分から 10 分間の NHK のテレビ体操を始めたところです。この毎日の挑戦が世話人の任期後も続けられれば個人的にも大変うれしい結果が期待できるのではないかと密かに思っています。

鵠沼に移り住んで

長 寛孝

平成 27 年 12 月に 70 歳を過ぎて神戸市から鵠沼に移り住むまで、兵庫県南部地方（主に神戸市）で暮らし、小学校から大学まで仕事も地元で就職したので、旅行や仕事の出張で他所に行く以外、神戸で暮らしました。定年 60 歳の前年に腎臓病（ネフローゼ）に罹り、再就職しませんでした。元気になると時間を持て余す事になっていた所、近くに湊川神社（南北朝時代の武将ー楠正成公を祭神とする）があり、地域の住民は氏子なので自治会長から神社の諸行事の手伝いを依頼され、例祭の運営、神社周辺の清掃、子供神輿行列の引率、自治会主催の阪神・淡路大震災の体験から、消防防災訓練に参加しました。

神社の習い事の教室に「楠公歌の会」があり、歌うことが好きなので、入会し、月 2 回の練習、楠公祭の時は舞台に出演しました。

鵠沼に転入したのは、息子が藤沢市にある大学を出て東京で就職しており、娘も結婚して東京に住んでおり、私の病気が再発した時に妻が不安になり、将来のことを考えて子供と一緒に住みたいとのことで、息子夫婦と 2 世帯住宅で暮らすことになりました。

藤沢には息子が辻堂で下宿していた時に 2 回来たことがあり、その時感じたことで鵠沼に来て一層感じるのは、気候が温暖で、別荘地，療養所として開発されたので、住んでいる方は穏やかで品がよく、関西人は何時もせかせかしている様に思えました。

転入後、鵠沼公民館主催の鵠沼夢倶楽部や単発の行事に参加していたところ、掲示板でくげぬま探求クラブがあることを知り、平成 30 年 7 月に入会を認めていただき、ヤングブラザーズに入り、入会の年でまだクラブに慣れていないまま、公民館再生活動に参加しました。

入会して、鵠沼のことを一層知ることになり、充実した生活が送れるようになりましたが、持病となったネフローゼが完治することがなく、再発することがあるので多くの部会に参加できません。皆様の迷惑にならないようにして、これからもよろしくお願いします。

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の大木」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

シリーズ

我が家の災害対応作戦（その６）

塩川 昌男

今住んでいる自宅を建てた 1980 年ころは、「防災建築」といえば主として耐震と耐火について考えればよかった時代であった。当時市内にあったハウジングセンターなどに足を運び見て回るうちに私の手が届く範囲で満足できる構造は地震につよい「ツーバイフォー（以下 2x4）工法」であるということになり、契約した。所在地は海岸から直線距離で 600m 程しかなかった。当時は津波のことはあまり話題になってはいなかったが建てる前に少し盛り土をした。

阪神淡路大震災や東日本大震災の時に 2x4 工法による家屋の倒壊被害は、通常の日本建築にくらべ非常に少なかったという報告があり納得したが、液状化による損壊は多く報告されていた。また津波の被害が著しく、液状化や津波に際しては 2x4 工法でも万全ではないことがはっきりした。大規模災害にともなう仮設住宅の避難生活の状況やその問題点がわかってくると、公助・共助とともに自助の重要性が指摘されるようになった。

津波に関しては、1975 年以来なぎさプロジェクトの進行により鵠沼海岸の国道 134 号沿いに護岸工事が進められ、最終的には海抜 6.5m 程の堤防が完成した。しかしながら、最近の津波や豪雨による大規模災害をきっかけにこの地域でも各種防災ハザードマップが見直され、個々人が具体的な数値を参考に対策を求められるようになった。これらの情報を我が家に当てはめてみると、洪水：0～0.5m、全壊率：30～40％、液状化：強い、津波による浸水深さ：1.2～2.0m となった。

そこで私は①洪水は無視、②全壊率は 2x4 工法なので無視、ただし、強震による家具等の転倒対策はしっかり行う、③液状化は打つ手がないので無視、④津波による浸水…この項目は重点対策することにした。

【家具等の転倒対策】阪神淡路大震災の時に転倒家具の下敷きで多くの犠牲者が出たと聞き、私も転倒防止ツッパリ棒を導入した（1 階 6 本、2 階 8 本、屋根裏 4 本）。同時に居間や寝室には背の高いものを置かないようにした。

【津波による浸水対策】大地震発生の時は鵠沼松が岡公園または鵠洋小学校まで避難しろ、と指定されている。寝室には一応運動靴、ヘルメット、懐中電灯、ラジオ、などが置いてあるが、本当に逃げられるのか。例えば真冬の午前 2 時ごろだと避難可能か？避難した後どうする…などと考えてくると、1.2～2.0m の浸水ならば自宅待機の方が良いのでは、と考えるようになった。そこで浸水時の状況を調べてみた。道路面から 1 階床上までは 1.0m、道路面から 2 階床面が 4.1m あり、浸水予想を考えると最大 2.0m としても 2 階にいれば大丈夫だろうと考えた。そこで自宅待機で必要なものをそろえ、備蓄している。

簡易トイレ、新聞紙、水、食料、ブルーシート、ロープ、灯油ヒーター、カセットボンベなどである。それでも万全ということはないと思っている。15m 級の津波が来たらどうする。幸い国道 134 号沿いには海抜 20m 級のマンション等が多数あり、津波の勢いを軽減してくれるだろう。

20m 級の津波が来たら…私には下記のような秘策がある。

【災難に遭う時節には災難に遭うがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。
これはこれ災難を逃るる妙法にて候】　（良寛）

家具転倒防止にはツッパリ棒

巨大津波のバリア、と期待のビル群

～例会・各部会活動報告～

6月　June

○例会 5 日(土) 36 名　6 月の会費徴収無し、公民館祭り説明、9 月の 14 回地域活動見本市に参加決定、縄のれん説明。
○行事 20 日(日)11 名　藤が谷公園春の花植え
○世話人・委員会 ①世話人会 2 日 6 名 ②くぐひ制作部 ◆9 日(水)公民館 8 名 くぐひ 106 号推敲 ◆23 日(水)公民館 印刷。
○鵠沼松が岡公園愛護会 7 日 16 名、20 日 9 名 清掃、紫陽花勉強会
○藤が谷公園愛護会 13 日 12 名清掃等
○おもちゃの病院 13 日 8 名 来院 13 名(新患 7 引取 4)◆27 日 12 名 来院 28 名(新患 8 引取 19)
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 20 日 子供 9 名 探求 6 名 父兄 3 名 公民館 1 名 講座と個別指導
○災害研究部会 4 日 8 名 ワークショップ形式で勉強
○ヤングハーツ 2 日 11 名 本番に備え練習
○健康部会 25 日 中止
○農園部会 7 日 5 名、25 日 5 名 オクラ、人参、落花生、トウモロコシ等の手入れ
○デジタル情報部会 28 日 15 名 ブラウザーソフト、クラウドサーバー、システム警告、Windows11
○ヤングブラザーズ 自主練 12 日 8 名 25 日 11 名
○俳句の部会「似歌会」 通信句会 10 名 兼題「夏野」で 30 句

以下の委員会・部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○メディア委員会･HP 制作部
○子どもと遊ぶ会　○極楽部会　○サロン会
○探訪部会　○カラオケ部会　○談話室
○近代史を語る会　○企業研究部会
○なつかしの名盤愛好会　○おひる探Q会

7月　July

○例会 9 日(金) 38 名　磯川さんを偲び黙祷。7 月会費徴収なし、納涼会なし。公民館祭り中止。湘南海岸祭り(10/24)に凧揚げで参加予定。
○行事 25(日)鵠洋児童館「夏フェスタ」参加者：子ども 34 名　探求 7 名　児童館職員 6 名　PTA3 名
○世話人・委員会 ①世話人会 6 月 30 日 6 名 ②くぐひ制作部 14 日 11 名 107 号編集方針及び新編集委員決定 ③メディア委員会 14 日 11 名 アーカイブ委員会(仮称)の設立を議論。④HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 6 日 12 名、18 日 12 名 清掃
○藤が谷公園愛護会 11 日 12 名 清掃草刈り
○ヤングハーツ 7 日 9(4)名 8 月曲の自主練習
○おもちゃの病院 11 日参加 10(2)名 来院 23 名(新患 8 引取 11)、25 日参加 8(1)名 来院 14 名(新患 5)
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 18 日 参加者子供 16 名クラブ 6(1)名 公民館 1 名 父兄 3 名 講座と個別指導
○災害研究部 2 日 13(3)名 顕著な大雨情報、ふじさわ防災ナビ、指定避難所/指定緊急避難場所について。
○極楽部会 21 日 13 名 今後の運営について
○農園部会 6 日 7 名　夏野菜の収穫と追肥
○談話室 21 日 12 名 コロナワクチンの話題が中心
○デジタル情報部会 26 日 19 名 Windows11 など
○ヤングブラザーズ 10 日 10(3)名、24 日夏休み
○俳句の部会「似歌会」通信句会 10 名 30 句

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○子どもと遊ぶ会　○サロン会　○探訪部会
○健康部会　○カラオケ部会　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○おひる探Q会

8月　August

○例会 7 日(土) 35 名 故磯川さんご遺族の手紙を紹介。8 月会費徴収無し。9 月に 3 か月分の徴収を決定。14 回地域活動見本市資料の紹介。
○世話人・委員会 ①世話人会 4 日 6 名 ②くぐひ制作部 11 日 10 名 第 107 号第 2 回編集会議 ③メディア委員会・HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 10 日 7 名、22 日 13 名　台風と長雨の後の清掃。
○藤が谷公園愛護会 22 日 7(2)名 地域の子供が 2 名飛び入り参加。清掃
○ヤングハーツ　夏休み
○おもちゃの病院 8 日 10(1)名 資機材管理の会議、22 日 12(2)名 修理部品整理とリストの作成、両日ともコロナ対応で病院は休み。
○極楽部会 18 日 13 名今後のテーマについて
○健康部会　夏休み
○農園部会 8 日、19 日、23 日、28 日に 3～5 名 で作業。トマト、オクラ、ナスを収穫。
○談話室 18 日 12 名　コロナの話題が中心
○デジタル情報部会　夏休み
○ヤングブラザーズ　夏休み
○俳句の部会「似歌会」第 107 回通信句会 10 名 30 句

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム
○子どもと遊ぶ会　○災害研究部会
○サロン会　○探訪部会
○カラオケ部会　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○おひる探Q会

( )内はゲストの人数

【くぐひ第 1 号の故磯川道夫さんの編集後記】
◇「会報くぐひ創刊号」をお届けします。鵠沼探求クラブ全員で作りました。私達は総勢 27 名です。何か、地元のためにお役に立ちたいという男性グループです。◇熱意にあふれた原稿がどっさり集まりました。◇たくさんある部会が夫々、北岡代表の創刊の辞にある６K を目指しています。◇元特捜検事で、今はボランティア活動をされている堀田力さんは「若い頃、『やりたいなあ』と思っていたことを実現させるのが、定年後の生きがいになる」と言っています。◇私達は、中高年層と呼ばれる世代となっていますが、青年の心を失わず、やりたかったことを実現させたいものです。(い)

鵠洋児童館･夏の工作フェスタ 2021.7.25

玉田 英二

1 回目：10:30～12:00　子ども：13 名、　2 回目：13:30～15:30　子ども：21 名
探求クラブ：7 名、　児童館職員：6 名（実習生 1 名）、　PTA：3 名

今日は小学校が夏休みに入り初めての日曜日だというのに、事前予約した子ども達が列を作り熱気ムンムン。玄関が開き、受付・検温・手先の消毒、そしてマスクを付けた子ども達がそれぞれのテーブルに集まってきました。探求クラブは、昨年人気であった CD コマ作りと昔ながらの水鉄砲作りを担当、児童館職員は風鈴作りと暑中見舞いカード作りを担当、子ども達はそれぞれ順番にテーブルを回ってそれぞれの工作づくりを行います。普段とは異なり、子ども達は工作に集中しているのですが、大きな声を出したり、騒ぐような子どもは一人もいません。コロナ禍生活が身についているのでしょうか！

CD コマ作りは、お手伝いに PTA のママと職員の方も加わって頂き、CD 盤、ビー玉、ボトルキャップ、盤に載せる塗り絵の材料でコマを作製するのですが、CD 盤にビー玉を固定する方法がミソとなっています。また、盤に載せる塗り絵見本を 2 種選択してもらい、水性ペンで色付けをしてもらうのですが、ここで子どもの個性が現れる瞬間です。特に女の子は、丁寧に色付けをする子や大胆な色付けをする子もいて、そのコマを回した時の色合いがきれいに映るのです。CD コマの面白いところは、絵付けした盤が回転した時にどの様な模様となって現れるか、そして低学年生でも回すことが出来ること、長時間の回転が楽しめることなのです。

昔ながらの水鉄砲作りは、青竹の入手本数が少なかったことから一部塩ビ管も使用した水鉄砲作りとなりました。塩ビ管は青竹と異なり内径が均一なため、水鉄砲に重要なピストン棒先端のてるてる坊主部分を、作成図どおりに仕上げることにより、止水効果が向上し性能の良い水鉄砲が出来ました。結果的には、全て青竹を用いて作れなかったものの 21 名の子ども達に自作の水鉄砲を提供できたことが良かったなーと感じています。そして水鉄砲を持って庭に繰り出し、水遊びに興じる子ども達の笑顔を見ることが出来たことが大きな収穫となりました。

今回のようなイベントは、普段の活動とは異なり参加した子ども達全員にそれぞれの工作に携わってもらうことが主旨なので、人数分の材料手配と作成時間の配分が重要であると感じました。

編集後記　会報くぐひ第 101 号に「新型コロナウイルス」の関連記事がはじめて登場して以来連続で 7 号目になる。本号の巻頭記事では大木さんがコロナ下の会員の状況や部会活動の様子、各種イベント動向について紹介。気象予報士の小川さんの入会を機に、災害研究部会の企画による気象と防災関連のエッセイの連載がスタートした。今回は初回で柳田さんと小川さんの執筆である。初代編集長を務めた磯川道夫さんが逝去された。追悼文を鈴木英紀さんと水野さんが寄稿した。2 つの挿絵はともに水野さんの作。部会紹介欄には玉田さんが子どもと遊ぶ会について、細田さんが似歌会について執筆、子どもと遊ぶ会のイベント関連では、鵠洋児童館「夏の工作フェスタ」参加の件を玉田さんが紹介。くぐひに関連し、多数の出版物があるが、その保存、管理状態が良くないので、小山さんより「アーカイブ委員会」を立ち上げて対処する旨のお知らせが紹介された。当会入会のビフォア・アフターの思いは鶴田さんと長さんにご披露頂いた。久しぶりに「我が家の災害対応作戦」を塩川が投稿。7 ページの最後にくぐひ第 1 号から第 17 号まで編集長であった故磯川氏の筆によるくぐひ第 1 号の編集後記を紹介する。創刊以来 26 年経過し 107 号をかぞえて継続中の「くぐひ」という連歌を引っ張り続ける発句にふさわしい、古さを感じない、含蓄のある名文である。当初、クラブ名称の地名は漢字表記であった。　（塩爺）

会報　くぐひ　第 107 号
2021 年 10 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 大木 信一
編集長 塩川 昌男